

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名	ほほえみ
日付	平成19年12月25日 特定非営利活動法人
評価機関名	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験15年
評価調査員	ケアセンター介護支援専門員経験5年
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

認知症の「全人的ケア」が定着してきた平成12年、岡山県ではまだ草分け時代に設立された。津山地域では初めてのグループホームだったが、今日でも遜色ない斬新な建物であった。当初から、認知症や車椅子生活になっても安心して暮らせる場を提供したいという代表者の思いが想像できる。外部評価制度が発足して4年目、このホームをずっと見せていただいた経緯から今日のこのホームの特長を見つめてみたい。

総合的に見て、ケアとサービスの内容と質は全くぶれていない事があげられ、一つひとつの項目が着実に深化していることが目についた。

代表者の利用者・家族そして職員への配慮がそれぞれにしっかりとっていて、利用者一人ひとりには人間として尊重する、家族にはパートナーシップの立場で意見や苦情を傾聴し、職員には仕事を任せ、適正な処遇をして、それぞれに信頼を得ている。

ホームの運営理念を掲げ、各方面に理念を反映させたケアやサービスを実現するために、年度計画を作り、職員間で共有している。

両ユニットの管理者は、設立以来異動なく、ケアや運営の推進役を果たしている。

職員は、利用者の苦悩や気持ちを受け止め、言葉の端々まで理解し、表情や言動から利用者一人ひとりの心を察しられるよう、職員の思いや悩みなどを一つのノートに記している。そのノートを全職員が共有して、ケアの真髄を極めている。

利用者と職員の間で、心の交流によるケアを進め、一人ひとりの意思や能力を見出し、ホームが自分の生活の場であることを実感してもらっている。

2つのユニットで、利用者や職員は行き来して交流を深めて、人間関係づくりの場をたくさん作っている。ウッドデッキや芝生の広い庭、畑の活動が活かされている。

食べる事を大切にしている。豊富なメニューを作り、調理から食事までの時間を利用者は楽しみ、役割を自覚している。

ホームでターミナルケアもしており、5人の看取りをした。

ホームの生活ぶりや情報を、ニュースレターに掲載して、家庭や関係先に提供している。このように数多くの運営項目に改善や新鮮さを加えながら、着実に実行している管理者や職員の姿を現認することができた。言葉では簡単であるが、利用者の安心しきった表情がこれらを実証している。又、ポリシーが常に一貫している事も見逃せない。

特に改善の余地があると思われる点

利用者や職員の間での「心の交流」による認知症ケアを深めていこうとしている。私達の法人でも、認知症の人との交流術と評価法の開発を進めており、その大切さを痛感している。認知症になってしまっても、「コミュニケーション感情 記録 きっかけ再生」のプロセスをしっかりと見出ししていくことが、「心の交流のプロセス」だと思うので、今後協力して何か成果を生み出せればと願うものです。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：運営理念の策定、普及、啓発は十分に実施しており、年間計画を作成し、理念の実現に努力しているため、改善項目は特になし。</p> <p>2. 全体的に見て…：利用者一人ひとりが生活の主人公。人生歴と人間性の尊重、自分の能力を活かせる生活、自身の意思決定ができる暮らしの中で生きている喜びを感じてもらえるような支援をしてきた。</p> <p>体は自由に動かないけれど、他の人の話を聞いてあげることができたり、ちょっとした可能性を見出し、誰かに役立っている気持ちを持つことに、利用者にも挑戦してもらって、生きがいや生きる価値をもってもらえるような支援をしている。身体ケアから、精神的ケアを見出し、これからは「心のケア」を見出そうとしている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：特に改善項目はない。既にハード面の生活空間は充実されており、ホームの内外共に落ち着いた生活環境の中で生活できているので問題ない。利用者は2つのユニット及び屋外のウッドデッキや芝生の庭園を、色々の時、場面で十分に活用している。</p> <p>2. 全体的に見て…：外周りの植栽や手入れは専門の職人によって整然とした環境を保っている。いつもきれいにして、利用者や家族を迎えるのは、ホームとして当然のことと代表者は言う。訪問調査の日は、この庭園にテーブルと椅子を移動して、ガーデンランチとなった。好天気の中で、利用者は思い思いの席に着き、歌を唱ったり、袋の中の果物を手触りで当てるゲームを楽しみ、ホームの自慢料理、英国風のレストランでのランチ気分を楽しんだ。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人ですることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：このホームのケアの水準は、相当高いレベルにあるが、業務改善に限界はなしという意欲が伺える。介護計画作成のプロセスでアセスメントの精度を高めようとしている。更に認知症ケアの真髄である「心のケア」の真髄に改善のメスを入れようとしている。又、利用者同士の間関係づくりを支援していこうとしている。高度なケアに挑戦していこうとする意欲を実感している。</p> <p>2. 全体的に見て…：このホームの介護計画から記録及び関係書類、職員間で共有しているノート等を見ると、利用者一人ひとりの人生物語を見ることができる。介護計画からは、利用者にもどのような生活をしてもらうか、該当する期間の生活シナリオが読み取れる。記録からは、毎日生活してきた足跡が分かる。又、職員が利用者を支えてきた証しが見える。モニタリングからは、利用者の元気が読み取れる。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：運営体制全般に亘って、代表者・管理者・職員の協働ぶりや各自の責任の持ち方がしっかりしている。家族との協調や地域との関わりも問題ない。現在行っている各業務を更に充実させて行こうとしている意欲を感じる。</p> <p>2. 全体的に見て…：代表者・管理者・職員が共に利用者に対して「細かい気付きを大切に、利用者一人ひとりの心の中に入り込んでお付き合いをする」というポリシーは、設立当初から全くぶれていない。それ以上に認知症ケアは人間の心の部分を深耕していこうとしている。又、ターミナルケアも実践しているし、今後も続けていこうとしているのは、本人や家族にとって安心感を与えてくれる。設立当初から続いているニュースレターの発行は、ホームと家族を結び絆となっている。又、家族からの意見や苦情は「ほほえみを育てる母」と運営に活かそうとしている。</p>		